

# 数学

名古屋大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部、

情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 1 / 1

## <全体分析>

試験時間	90 分	解答問題数	3 題
------	------	-------	-----

### 解答形式

全問 論述式.

### 分量・難易（前年比較）

分量（減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化）

### 出題の特徴

全問小設問によって構成されている.

文科系は理科系とほぼ共通問題だった.

### その他トピックス

特になし.

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	微分法と積分法	数学Ⅱ	2つの放物線の共通接線. 放物線およびその接線を境界にもつ領域の面積.	標準
2	対数関数 高次方程式	数学Ⅱ	対数の性質の利用. 3次方程式の解と係数の関係および3次関数のグラフ.	標準
3	確率	数学A	石の移動に伴う状況分析（ルール・条件のもつ性質を発見）.	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

二次試験は難易度が高いものが出題される。まずは典型的な問題を必ず解けるようにした上で、過去問を十分に研究し、問題を正しく読み取る力、複雑な事象を整理する力、それらを答案に表現する力もつけておこう。

名古屋大学では、微分法と積分法、数列、確率、整数、図形と方程式が頻出の分野である。これらの分野は特に重点的に演習を積んでおくとよい。

また、計算が複雑になることも多いので、どのように計算すればよいのかを常に意識しながら解いていこう。